

滋賀県の中小企業のための情報誌

UCHI KOCHI

Uchide no
Koduchi

滋賀でチャレンジし続ける
中小企業の皆さまに
読んで楽しく、身近で役に立つ
情報をお届けします。



Vol.
70

令和4年6月発行

元気企業訪問

- 2P 株式会社I.S.T (アイ.エス.ティ)
- 4P 富田酒造有限会社
- 6P 株式会社新和精工

起業家魂

- 8P 吉田悦蔵邸

プラザゼミナール

- 10P ESG経営

しがのミカタ

- 12P 一般社団法人 滋賀県発明協会

インフォメーション

- 14P しがオープンイノベーションフォーラム
- 16P CO₂ネットゼロ取組支援
- 18P 滋賀創業サポートネットワーク

※表紙写真提供：(公社) ひわごビジネスビューロー



公益財団法人

滋賀県産業支援プラザ

代表取締役社長

阪根 利子さん

さ か ね と し こ



柔らかな風合いと着色できるのが特長の不燃ヤーンを使用した壁面ボード



社員の3分の1を占める研究・開発者が 自由な発想とアイデアで「世にないもの」を 生み出す研究開発型マテリアルブランド

「他社にないもの、付加価値の高いものを、最高品質で届ける」の社是のもと、原料におけるモノマールの重合を初めとして、独自の複合技術を用いた高機能材料、不燃、及び高機能繊維などの新素材を開発。それらの製品は、OA機器、建築、電気、電子、航空など様々な分野で活用され、高い信頼を得ている。また、少子高齢化など直面する社会問題に対応するため、独自の社会貢献活動に取り組んでいる。

▼起業からわずか2年。

「燃えない糸」の開発で
社業に勢いがついた

——創業の経緯と現在の事業内容
は？

創業は1983（昭和58）年、現在の会長で私の父である阪根勇が「研究開発を行い、その技術を販売する会社」として操業を開始しました。最初に手がけたのが燃えない糸（不燃繊維 イーストフロン®）で、これが1984（昭和59）年に東京で起きた電電公社（現・NTT）の地下ケーブル火災事故の再発防止策として、ケーブルの耐



標準的な糸よりも軽く暖かいカー
ルカー。糸の中に多くの空気層
があるため保温性に優れている

火カバーに採用されました。これによって社業に勢いがつき、1991年には大手OA機器メーカーの複写機用キーパーツの開発・製造を手掛けたことで、当社の技術開発力は世界に高く評価されるようになりました。

現在当社では、ポリイミド樹脂を軸とした高機能高分子材料、宇宙航空機用複合材料、OA機

器用機能性部材、不燃繊維および応用製品、各種テキスタイル素材および製品、スポーツ用コンポジット製品、計量機器など、あらゆる分野で他社にない新しい素材と製品の研究・開発、製造を行っています。

▼滋賀県は素晴らしい。他

所にないものが沢山ある。そのサポートと共に、当社の「世界初！」が次々と生まれている

——滋賀県に本社を構える利点とサポインの活用については？

滋賀県にある本社・研究所では全社員のおよそ3分の1が研究開発や技術開発に従事しています。

新しい素材は、その素材が使われる分野や最終製品を熟知することにより生み出されます。滋賀県には公的試験研究機関の「工業技術総合センター」など、

問い合わせ先

（公財）滋賀県産業支援プラザ 連携推進部 イノベーション推進課

☎ 077-511-1414 ☎ 077-511-1418 ✉ ino@shigaplaza.or.jp



I.S.Tで開発した天然繊維で作られた衣類

様々な分野に精通する大学や研究・専門機関も多く、また政府による企業支援事業を活用するための県のサポートも充実しているため、共同研究・開発も行いやすいです。我々のような開発型企業にとって滋賀県環境は非常に有難いと思います。

この滋賀県にあるI.S.T本社・研究所からは「世界初」となる製品が次々と生み出されています。最も新しく世に送り出した製品は、当社開発の高強度ポリイミド繊維「T-MIDETEX®（イミドテックス）」を用いた世界初の革新的FRP（繊維強化プラスチック）です。この開発プロジェクトは平成30年に経済産業省のサポイン事業に採択いただき、産業支援プラザ

には申請から事業終了までの3年間、事務局としてご協力いただきました。このプロジェクトで完成された技術で、現在スキー板やゴルフシャフトへの応用開発を行っています。



共同開発中のスキー板（上）。ゴルフシャフト（下）は内部にイミドテックス素材を入れ、飛距離をのばす研究開発を行っている

このサポインプロジェクトの他にも、本来茶色をしているポリイミドを透明にした「透明ポリイミド樹脂」、それを使った透明ポリイミドロールフィルム「TORMED®（トーマッド）」、前出の「T-MIDETEX®（イミドテックス）」など、当社の研究・開発において滋賀県の機関や大学との連携で「世界初！」を次々と生み出しています。

▼目指す頂上をしっかりと見据え、自由な発想で課題に立ち向かうことが研究開発の基本

――社員に期待するもの、そして今後の展望は？

社名のI.S.Tは「Industrial Summit Technology」の頭文字を取ったもので、「産業技術の最高峰」の意味です。他社にないものを研究・開発するには「発想」が重要です。研究・技術開発者には、常に「登る山の頂上（ゴール）」を見据えた上で、自由な発想で課題に向かう」ように言っています。そのためには準備が最も大切。山登りでも、頂上を目指すチャンスは何度も訪れはしません。その意味で「実験も入念な準備をし、本番はワンチャンス」と繰り返しアドバースしています。

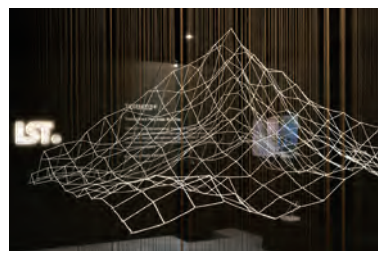
研究開発の仕事は、成果が出るまでに長い時間を要します。そのため、将来に向けて沢山の良い種をまき続け、次々と新しいアイデアを提供していけるI.S.Tでありたい。それが当社の強みであり、目指すところでもあります。今後、これまでも当社が手がけてこなかった分野にも事業の領域を広げ、新たな業界や企業との取引を増やしていきたいと思っています。

会社、社員、社会。

「三方よしの社会貢献活動」を実践

――CSRの取組は？

2003年に厚生労働大臣賞を受賞した「GSLプロジェクト」は高齢者雇用と生産性の向上を両立させるのが目的のプロジェクトです。兵庫県の加美工場において地域の高齢者を雇用



社名に因んだエベレストのオブジェ。茶色の縦糸はポリイミド繊維で100本の糸をよって1本を作っている。高強度でハサミやナイフでは切れない

し、1日数時間を工場で働き残りの時間は職場の仲間との交流で過ごしてもらいます。高齢者の方に「自分たちにはちよっとキツイと思う作業」を指摘してもらい、その作業工程の改善や自動化に取り組むことで熟練者や職人といわれる人でなくとも、誰もが働ける生産体制を整えています。

また、社員には会社負担で介護資格を取ることを推奨し、取得者の介護施設への派遣も行っています。異種の仕事を経験することで、これまでとは違ったアイデアが生まれてくることがあります。CSR活動という面もありますが、会社にも社員にも社会にも「三方よし」となる活動です。



<PROFILE>

株式会社I.S.T（アイ・エス・ティ）

■代表者／代表取締役社長 阪根 利子

■従業員／128名（グループ全体498名）

■所在地／滋賀県大津市一里山5-13-13（本社・研究所）

■業務内容／ポリイミド樹脂を軸とした高機能高分子材料、OA機器用機能性部材、各種テキスタイル素材および製品、不燃繊維および応用製品、計量機器などを中心とした新しい材料と製品の研究開発およびそれらの製造

■TEL／077-543-2211

■URL／<https://www.istcorp.jp>

※ 戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン）

国の中小企業の研究開発に対する代表的な競争的資金支援制度。産業支援プラザは平成19年度から、しが新事業創造ネットワークの活動を通じ構築した産学官連携による研究プロジェクトに対して、事業管理機関として研究開発を支援しています。

富田酒造 有限会社

代表取締役

富田 泰伸さん

と み た や す の ぶ



▼兵庫県の酒米を使いながら滋賀県の地酒ですと
いつのに違和感を持った

— 家業をつぐと決めたときに
考えたことは？

大学卒業後に勤めた会社をやめて実家の富田酒造に入社する直前に、フランスやスペイン、スコットランドを旅しながらワインやウイスキー造りを勉強してきました。その経験に照らして今の日本酒業界を見ると、違和感を持つところがいくつかありました。

ワインの世界では、例えば、「シャンパーニュ」と謳えるのは、

酒造り480余年。 歴史と伝統を繋いできた酒蔵に デジタル技術を導入し、革新的 な働き方改革を実現

湖北・木之本町に蔵を構えて480余年。地酒の「地」に徹底的にこだわった酒造りを標榜する一方で、デジタル技術を導入し蔵元の昔ながらのアナログ的働き方にメスを入れるなど、日本酒造りの新しい可能性を求めてチャレンジを続ける気鋭の15代当主にスポットを当てた。



シャンパーニュ地方のブドウ畑

原料のブドウや醸造蔵がフランスのシャンパーニュ地方であることが条件となります。「テロワール」という概念で、まさに「地

酒」の本質を指した定義で、法律にもなっています。ところが日本酒にはそういう定義はなく、原料は兵庫県の酒米で東南アジア産の醸造アルコールを添加していても、滋賀県の蔵元が造れば「滋賀の地酒」となるわけです。実家である富田酒造を継ぐにあたり、フランスやスコットランドで見聞したワインやウイスキー造りを念頭に、「地酒の地（＝地元）に徹底的にこだわった酒造りをやろう」と決心。いくつかの課題を洗い出しその改善に取り組みました。

まず改善の第1弾として手掛けたのが原料の米です。それま



大正時代に北大路魯山人が当地でしばらく創作活動していた際に書いたもので、文字はラベルに使用されている

では県外の酒米を主に使っていたのですが、すべて滋賀県産に変えました。今では、そのうちの75%が地元・長浜の契約農家さんの田んぼで収穫されたもので、さらに無農薬米や滋賀県の在来種米である「滋賀旭」を栽培してもらうなど、原料の米にはこだわっています。

▼当たり前とされてきた酒造りの慣習を改善。
さらに、IoTの導入で前時代的な働き方が劇的に変わった

— 産業支援プラザとはどのような関わりが？

問い合わせ先

(公財)滋賀県産業支援プラザ

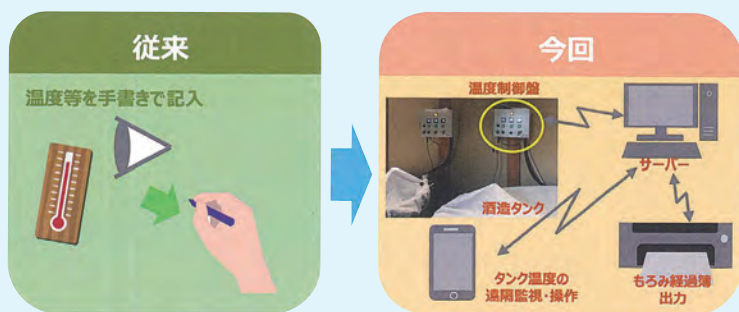
連携推進部

イノベーション推進課

☎ 077-511-1414

☎ 077-511-1418

✉ ino@shigaplaza.or.jp



IoT 導入の概念図

蔵元では、仕込みの季節になると杜氏と呼ばれる職人集団が地方からやって来て酒造りに従事し、蔵主は基本的に製造にはノータッチというのが慣習とされてきました。当社も石川県の杜氏が製造にあたっていたのですが、私は自分の方針通りに酒造りをしたかったので、改革の第2弾として杜氏に頼らず自前の社員での製造に踏み切りました。つまり私が杜氏、製造責任

者になったわけですから。さらに、産業支援プラザの支援を受けて製造現場にIoTを導入しました。これは、デジタルツールを活用して製造業の生産性向上を図ることを目的とした補助金制度（製造現場へのAI・IoT導入促進補助金）です。

具体的には、酒造りで一番重要な醸造中の適切な温度管理を、酒蔵に取り付けたIoTセンサーによってタンク内の温度やもろみの状態を離れた場所で、いつでも確認・管理ができるようになるのです。滋賀県では当社が初となる試みでした。

それまでは私が従業員が日夜交代で酒蔵に張り付いて情報を手書きで記入し、それをもとに私が温度管理をしていました。そのため、営業活動など経営者としての業務に影響が出るし、従業員も宿直や休日出勤などの負担がありました。これが一気に解消。私自身はスマホさえあればいつでもどこでも温度管理ができるし、社員は残業も宿直もなし。画期的な働き方改革が実現しました。

▼右肩下がりといわれる日本酒業界にあって今、当社のような小さな蔵元に追い風が吹いている

——業界の現状と今後の展望を聞かせてください。

いま日本酒業界はワインやチユーハイに押され、右肩下がりの状態にあると言われています。そのため「フルーティーな香りと味わい」の日本酒などが開発されていますが、米のふくよかな風味と独特の香りを無くしてしまった日本酒ではなく「お米の国の日本

で、米から作るお酒」という確固たるアイデンティティをもった日本酒を造っていきたいと思っています。

また右肩下がりと言われる中で、私たちのような小さな蔵元にはむしろ追い風が吹いていると思っています。理由は、消費者指向の変化と情報通信ツールの普及です。大量生産・大量消費の時代と違い、現代は価格や機

能といった合理性よりも商品の背景にある文化性に目を向ける消費者が増えてきました。例えば当社の製品「七本鎗」でいえば、「賤ヶ岳の戦いの舞台となった湖北の小さな蔵元が、地元で栽培された在来種の酒米と奥伊吹山系の伏流水で仕込んだ地酒」という商品の物語です。また、その商品情報はインターネットやS

NSなどによって日本各地、世界へと発信することが出来ます。今後は、ワインのようにビンテージの概念を取り入れた熟成酒や、木桶で醸した地酒、日本酒を原料としたスイーツや石けんの販売など、日本酒の新しい可能性の実現に向けた酒蔵経営に取り組んでいこうと思っています。



店内には商品の他に、日本酒関連のグッズが並べられている



木桶で仕込まれた商品「七本鎗 木ノ環」



<PROFILE>

富田酒造有限会社

■代表者／代表取締役 富田 泰伸

■従業員／13名

■所在地／滋賀県長浜市木之本町木之本1107

■業務内容／清酒製造

■TEL／0749-82-2013

■URL／www.7yari.co.jp

※ 製造現場へのAI・IoT導入促進補助金

製造業の人手不足の深刻化に対して、AI・IoT機器等の導入促進を行うことにより県内中小企業者のモノづくり産業の基盤強化を図ることを目的とした補助金。

代表取締役

新井 祥友さん

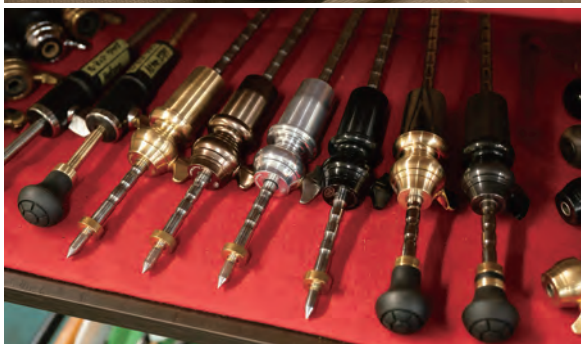
あ ら い よ し と も

▼世の中にないものを創
るとなるとスイッチが入
り、俄然燃えてくる

— クラシック楽器のオリジナ
ル部品造りに取り組んだきっか
けは？

私も弟も音楽が趣味なので
が、あるとき弟が弾いていたコ
ントラバスの調子が悪く、神戸
の楽器専門工房に相談に行った
のが縁で、その後、工房主から
の依頼である楽器部品を作って
みることにしました。

その楽器部品とは、コントラ
バスの底面に取り付けられてい
る「エンドピン」と一般に言わ
れるものです。演奏の際に楽器
の高さを調整するものですが、
私には見せてもらった既存のモ
ノが、どれもがおざりな作り
に思えました。誰にでもあるこ
とですが、すでにあるものに対
し無意識のうちに「これはこれ
で当たり前」という思い込みで
す。しかしモノづくりに関して
は、もう一度まっさらな目で見
ることが必要だと思っています。



コントラバスの底面に取り付けられているエンドピン（上）と、SSPが
開発・製造したエンドピンとソケットのオリジナル製品

甲賀市にある小さな町工場。祖父が京都で創業した鉄工所は三代にわたっ
て受け継がれ、現在は孫となる新井祥友さんが代表となつて、父、弟と共に
重量物搬送装置やウインチ・ゴンドラを製造する国内メーカーをクライアント
に金属部品の精密加工を続けている。その一方で、祥友さんと弟の趣味であ
る音楽がきっかけとなつて取組を開始したのがクラシック楽器部品のオリジナ
ル品を製造する新事業。既存の概念に縛られない発想と高度な技術的ノウハ
ウは日本や米国で特許を取得。そのオリジナル製品は著名な楽器製造者や演
奏者から熱い視線が注がれている。

もともと何もない白紙のところ
から、あれこれ考えながらモノ
づくりをするのが好きで、見せ
られたエンドピンを見たときも
改良案というか、設計図みたい
なモノが自然と頭に浮かんでき
て、この製品開発にはパチンと
スイッチが入ったような、心躍
る思いがしました。弟と共に考

世界の楽器製作者や演奏者から称賛の声。
甲賀市の小さな町工場が創り出す
既存の概念に縛られないオリジナル楽器部品

問い合わせ先

(公財)滋賀県産業支援プラザ 経営支援部 滋賀県よろず支援拠点

☎ 077-511-1425 ☎ 077-511-1418 ✉ yorozu@shigaplaza.or.jp



工場内にあるスタジオ。試作された製品はここで試される

えた独自構造を部品に組み込み、いくつかの試作品を作っては自社スタジオで試し、そうして出来上がった製品に、工房主は「このような画期的で完成度の高いエンドピンは見たことがない」と絶賛してくれました。

こうしたお客さまの声に背中を押され「SSP（シンワ・サウンド・プロダクト）」を立ち上げ、自社ブランドで開発から製造・販売を行う楽器部品製造事業をスタートさせました。その後、世界的に著名なコントラバスの製作家にも弊社の「エンドピン」と「ソケット」が認められることとなり、滋賀県の地味で小さな町工場でも世界に通用する製品が作れるのだと確信しました。最近では、世界で活躍されている演奏者からも「取り

付けた瞬間から音の違いをはっきりと感じた。ウィーンの楽器屋や音楽仲間も感心しています。このクオリティーは日本人として誇りに思います」という言葉をいただきました。

▼工場の引き継ぎ、海外事業、特許取得。

初めての体験に右往左往する私にピッタリ寄り添ってくれた

―産業支援プラザとの関わりは？

父親から会社を引き継ぎ、法人化に踏み切ったときです。「事業承継・引継ぎ補助金」の制度があることを知り「よろず支援拠点」に相談しました。申請書類や事業計画書の作成など初めてのことで、何もわからない私にいろいろ丁寧に指導していただきました。その際、補助金を受けるには単に事業を承継するだけでは駄目で、引き継いだ上で新しい展望や事業計画が審査の鍵になると教えていただきました。たまたまその時、楽器部品製造事業を始めたところだったので、それを事業計画としてまとめて申請しました。

また、楽器部品製造事業で海

外取引をする際のルールや書類作成についても教えていただきましたし、オンライン販売についても丁寧なアドバイスをいただきました。特許取得についても「中小企業等外国出願支援事業費補助金」があり、適切なアドバイスによって審査に合格しました。



日本(右2つ)と米国(左)で取得したオリジナル製品の特許証

楽器部品製造事業を立ち上げてから初めて経験することが多く、その度に壁にぶつかりましたが、産業支援プラザ、よろず支援拠点の皆さまからの細やかな指導で何とか乗り切ることができ、私自身も大きく成長することができました。

▼「世界に誇れる日本の製造技術と魂」を承継し、羽ばたいて行きたい

―今後の目標と展望は？

時代と共に町工場が減りつつ

あります。「小さな町工場」が好きな私には断腸の思いですが、その中で失われていく匠の技も多くあります。デジタル機能搭載の最新型機械でも難しいとされる仕事が、旧型の機械であっても使い方次第で製造できることがあります。それが職人技と言われるものです。難しい仕事でも、考え、工夫し、継続していく。それが「モノづくりの原点」。

現在SSPはバイオリンやチエロの部品、楽器工房用の特殊ツールなども展開し、今後は、世界各国のお客さまが直に製品に触れてもらえるよう海外取扱店を増やし、国内向けにオンラインストア販売の充実・強化を目指しています。また、国内や米国の楽器工房から開発依頼を受けている案件がいくつかあり、それをカタチにしていくと共に、「世界に誇れる日本の製造技術と魂」を引き継ぎ、アピールしていきたいと考えています。



培われた職人技を駆使して製造に取り組む従業員



<PROFILE>

株式会社 新和精工

■代表者／代表取締役 新井 祥友

■従業員／5名

■所在地／滋賀県甲賀市甲南町電法師1168

■創業／1940年

■業務内容／金属加工：大型重量物の移動・運搬・搬送関連部品、ウインチ関連部品等の製造

楽器部品製造：クラシック楽器の部品、工房向けツールの開発・製造・販売（取扱店：日本・イタリア・ドイツ・オーストラリア・アメリカ）

■TEL／0748-60-8444

■URL／オフィシャルサイト
<https://www.sinwajapan.jp/>
 オンラインストア
<https://sspjapan.com/>

* 事業承継・引継ぎ補助金

中小企業者や事業者等が事業承継、事業再編及び事業統合を契機として、新たな取り組みや広報活動を行う事業について、その経費の一部を補助することにより、事業承継等を促進し、経済の活性化を促す補助金。

* 中小企業等外国出願支援事業費補助金

知的財産権を活用して外国への事業展開等を計画している県内中小企業者等を支援するための補助金。

起業を志した時に考えた 「いちばん大事なことを 何度も何度も 思い返すことが大切」

起 業 家 魂

<PROFILE>

- 事業代表者／吉田 鮎美
- 所 在 地／滋賀県近江八幡市池田町5丁目21-3
- 創 業／2022年3月
- 業 務 内 容／吉田悦蔵邸にて学びの場の創出と、写真撮影スタジオ、ギャラリースペースの提供
- 問い合わせ／yoshidatei1913@gmail.com <https://www.yoshidatei1913.com>

吉田悦蔵邸

代表 吉田 鮎美さん
よしだ あゆみ

近江八幡市にある吉田悦蔵邸は、建築家であり事業家、伝道者として知られるウイリアム・メレル・ヴォーリズが設計した3棟の住宅で構成される池田町洋風住宅街（ヴォーリズ建築群）の一つで、県指定の有形文化財。

四代にわたり受け継がれてきた吉田邸は、いま曾孫となる吉田鮎美さんが始めた事業で新たな歴史が刻まれようとしている。

曾祖父の吉田悦蔵自身も設計者の一人

— 吉田悦蔵邸について —

1913（大正2）年にヴォーリス合名会社の設計により建設されたものです。吉田悦蔵は、

ヴォーリズが英語教師として着任した商業学校での最初の教えずで、ヴォーリス合名会社の創設メンバーの一人です。本館建

物は木造3階建ての腰折れ屋根のダッチコロニアル様式で、洋館に和室を組み込み、米国製建具と金具を多用するなどヴォーリズ建築の特色がよく出ています。

往々にして吉田邸はヴォーリズの設計といわれますが、実は吉田悦蔵自身も設計を担当しています。曾孫としては、そのことをもっと知って欲しいと思っています。

現在、建物のオーナーは父・吉田与志也。父はここで生まれ

ました。祖父、祖母もしばらくここで暮らしていましたが、二人が亡くなってからは父が管理をしていました。2020年、私の結婚を機に奥の旧女中室を改装して夫婦で住んでいます。

吉田邸への愛着と興味が「私が屋敷を守っていい」と決心させた

— 起業のきっかけと、産業支援プラザとの関わりは？ —

大学生の頃から、ここに住んで何かをしようとは決めていましたが、具体的な構想はありませんでした。起業を決心したきっかけはいくつかあります。

まず一つめは、親族の中でこの屋敷に興味を持つ人がなく、このままでは吉田家の手から離れていくという危機感です。結局小さい頃から愛着と興味を持っていた私が「この家を守っていい」と決心しました。大学

で就職活動をしていた頃です。父親の願いでもありました。

吉田邸の保存・活用について私は、その準備として卒業後イタリアに渡り独学で建築などを学びました。帰国後は建築とインテリアの専門学校に通い、修了後は建築関係のデザイン事務所や家具屋さんに勤めました。二つめは、結婚でここに住み始めたこと。



吉田悦蔵邸全景

問い合わせ先

（公財）滋賀県産業支援プラザ 経営支援部 創業支援課

☎ 077-511-1412 ☎ 077-511-1418

✉ in@shigaplaza.or.jp

そして三つめが東近江市商工会主催の「**女性のための創業塾**」に入塾したことです。創業のための基礎的な勉強をしていく中で漠然としていた起業というものが現実的になり、何より意欲に燃えた沢山の参加者の方々の存在が面白い意味での焦りとなり、エンジンがかかりました。

また、ここで産業支援プラザを知り、「**起業準備応援補助金**」に応募、採択されました。この事業の特徴は、伴走支援者とペアになって取り組むことです。

私は東近江市商工会の方に伴走者になってもらい、さまざまなアドバイスをいただきました。

ここを、人々を魅了するところにしたい

—— 吉田邸での事業内容は？ 苦労することは？

現在は、学びの場、写真撮影スタジオ、ギャラリーです。現在、学びの場として行っている事業は、私が邸内を案内しながら、吉田家や吉田邸の歴史、建物の細部や家具調度品などの紹介・説明です。少人数・予約制で実施しています。今後は講演会やワークショップ等の会場と



写真上：サンルーム 写真中左：パウダールーム 同右：茶室 写真下：ダイニングルーム

しての展開を考えています。

写真撮影スタジオは、和室洋室そして茶室もあるので様々なシーンでの撮影ができ、スタジオとしてのポテンシャルは高いと思っています。利用されたカメラマンの方も大変感動されていました。

ギャラリーは今後メインで取り組んでいきたい事業です。私はここを「魅せる場所」つまり人々を魅了するところになりたい。

それには展示ギャラリーが一番だと思っています。私のセンスで選んだ作品とこの建物を掛け合わせることで相乗効果が生まれると考えるからです。

苦労というか、課題は貴重な物品、備品、家具などの利用と保存をうまくコントロールすることです。調度品23点も文化財なので如何にして傷つけないように、壊れないようにしていくかがかなり難しいところです。

様々な人と出会って可能性を広げ、少しずつ新しい事業を増やしていきたい

—— 今後の展望は？ 起業を目指す方に向けてひと言

今は学びの場・写真撮影スタジオ・ギャラリーの三つの事業を行っています。今はもうちょっと幅を広げたい。これだけしかないと思わずにやっていくと思っています。しかし、

多いと運営が難しいので、まずは色々な方と出会って可能性を広げながら、新しい事業を増やしていこうと考えています。

実は、自分の結婚式はここで挙げました。結婚式場としての活用も考えていたのでその事例にもなるし、スタジオが前撮りに使ってもらえる可能性もあるなと思って。それと、先ほどのギャラリー事業を充実発展させていきたいと思っています。なんとなく来られる所ではないからこそ、ここを目指して来てくださった方にはゆっくりと過ごしながら特別感を味わって帰っていただきたいと思っています。

起業を目指す方に必要なことは、その事業で何を一番大切にしたいか、何が一番大事かをはっきりと目覚めることです。そして事業を始めてからも繰り返しそのことを思い返すことが大切だと思います。

※1 女性のための創業塾

創業に興味がある方、近々独立開業を考えている方のための創業スクール。特に小さなお店の開き方に的を絞り、創業に必要な基礎知識やネットの利用などのノウハウを6日間で学びます。

※2 起業準備応援補助金

県内の起業準備者や起業して間もない立ち上げ段階の方が、支援機関担当の伴走支援を受けながら行う「事業化・市場化の道筋をつけるために必要な取組」に対して30万円を上限に補助金を交付するものです。令和3年度は、ポストコロナ社会に相応しい起業を支援するため、別枠が設けられました。

近江商人の「三方よし」 に学ぶ新時代に求められる 企業のありよう

Environment (環境)

Social (社会)

Governance (企業統治)

ESG経営で持続可能な 企業経営を!

近年、日本でも環境問題や社会課題、ガバナンス強化と向き合い、企業の持続的な成長を目指す「ESG経営」が注目されています。そのような中で、ESG経営の重要性やどのようなメリットがあるのかわからないという企業も少なくありません。そこで今回は、企業がESG経営に取り組む必要性や目的、そのメリットなどをわかりやすく解説します。



そもそもESGってなに？

ESGはEnvironment (環境) Social (社会) Governance (企業統治) の頭文字を取って作られた造語です。これらの3要素を念頭に経営に取り組むことをESG経営とよびます。



SDGsとの関係は？

※ SDGsが社会、経済、環境の観点から持続可能でよりよい社会の実現を目指している点で、企業のESGへの取組が最終的にSDGsの目標達成につながっていくことになります。

※ SDGs
[Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)]の略称で、国連で採択された世界共通の目標



ESGの観点で
経営に取り組む主な目的は？

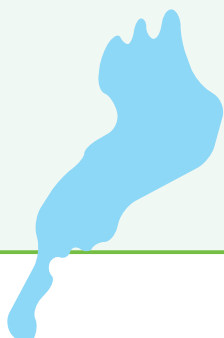
現代社会はこれまで急速な経済発展を遂げてきましたが、それと引き替りに地球環境や労働環境の悪化が進んできました。

従来、企業の評価は主に財務面で判断されていましたが、これからの時代は決算書の数字だけでなく、このような問題と正面から向き合っていくのであれば、企業の持続的な成長を実現することは難しいと考えられています。



中小企業にもESG経営が必要ですか？

製造業の割合が高い滋賀県では、今後、特に必要となる経営指針です。例えば自動車メーカーのトヨタは、取引先すべてで脱炭素社会を目指していくと発表しました。つまり、カーボンニュートラルに取り組まない企業とは取引をしなくなる可能性が高いということです。一企業のアップル社も同様です。このような時代だからこそ中小企業はESGをビジネススタンスとして取り組み、中長期的な企業の持続可能性につなげていくことが求められます。





ESG経営のメリットは？

- ESGそれぞれの課題に積極的に取り組んでいけば
- ① 経営リスクの回避とビジネスチャンスの獲得につながる
 - ② 企業イメージが向上し、取引先からの信頼獲得や人材確保につながる。
 - ③ ガバナンス（企業統治）の強化によって、社内での不正行為の未然防止や働きやすい職場環境の醸成につながる。

どんなことから始めればいいの？

① 自社の現状を知る

② 課題を見つける

③ 課題解決のための目標を設定する

④ 目標達成に向けて取組を開始する

＜滋賀銀行のESGファイナンス＞

■カーボニュートラルローン「未来よし」

↓ 脱炭素に向けた設備資金を広くサポート

■『しがぎん』サステナブル評価融資

↓ 企業のSDGsに資する取組を社内外へPR

滋賀銀行の「SDGsコンサルティング」はSDGsを切り口にした現状分析と企業のビジョンや課題整理を行います。その上でSDGsを経営へ取り込むためのアドバイスや課題解決に向けた伴走支援を行っています。



ESG経営は近江商人の「三方よし」の精神に通じる



一 滋賀銀行のESG経営支援一

「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」。いわゆる「三方よし」は、自らの利益のためだけではなく、社会にも貢献することを視野に置いた近江商人の精神です。琵琶湖を擁する滋賀県を地盤に営業を続けてきた弊行は、早くから「環境」を企業活動に組み込み「三方よし」で歩みを進めてきました。

社会環境の急激な変化で企業におけるSDGsの取組が求められる中、滋賀銀行ではESGやSDGsの要素を考慮した事業性評価と、それに基づく融資や本業支援でお取引先の持続的成長をサポートし、ひいては地域の持続性向上や地域循環共生圏の創出に資する取組を行っています。



ESG ファイナンス戦略チームのみなさん

- ★ 2022年度 「第3回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン」 間接金融部門で「銅賞」受賞
- ★ 2021年度 「第2回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン」 間接金融部門で「金賞（環境大臣賞）」受賞
- ★ 2020年度 「第1回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン」 融資部門で「銀賞（環境大臣賞）」受賞

※1 ESGファイナンス・アワード・ジャパン

環境省が2019年度に創設した表彰制度。ESG金融やグリーンプロジェクトに関して積極的に取り組み、環境・社会に優れたインパクトを与えた投資家・金融機関等、また環境関連の重要な機会とリスクを企業価値向上に向け経営戦略に取り込み、企業価値と環境・社会インパクトを生み出している企業の取り組みを評価・表彰し、社会で共有することを目的としている。

※2 間接金融部門の概要

ESG要素の考慮により取引先の価値向上および産業の競争力強化に貢献する取り組みや、地域におけるESG金融の実践により地域活性化（地域循環共生圏の構築）に貢献する取り組みを表彰する。

しがのミカタ



知的財産の活用を支援 する「しごと滋賀の 中小企業を支えたい」



滋賀県のさまざまな中小企業支援機関を紹介する「しがのミカタ」。今回は、（一社）滋賀県発明協会の「INPIT滋賀県知財総合支援窓口」を紹介します。

（写真：INPIT滋賀県知財総合支援窓口のみなさん）

■滋賀県発明協会の事業内容

発明の奨励・表彰事業

- ・「全国発明表彰」「近畿地方発明表彰」などへの推薦

その他

- ・会報誌の発行
- ・特許印紙類の販売と予納代行

児童・生徒への支援

- ・「滋賀県発明くふう展」「滋賀県未来の科学夢絵画展」の開催
- ・「少年少女発明クラブ」の活動支援（現在県内6クラブ）

産業財産権制度の普及

- ・産業財産権に関する講習会、セミナー等の開催
- ・特許情報提供
- ・出願人・分類などによる継続調査

INPIT滋賀県知財総合支援窓口（委託事業）

- ・企業における知的財産活用を支援

— 滋賀県発明協会の事業内容

滋賀県発明協会は1943（昭和18）年創立の社団法人発明協会滋賀県支部が前身で、2011（平成23）年に分離独立しました。

発明の奨励振興、その実用化の促進と産業財産権（特許・実用新案・意匠・商標）制度の普及

を図るとともに特許情報の提供等の事業を行なっています。

今回はこれら事業の中から、中小企業が抱えるさまざまな経営課題について、自社のアイデア、技術、ブランドなどの「知的財産」の側面から解決を図る「INPIT滋賀県知財総合支援窓口」の紹介をします。

— 知的財産とは

仕事や活動によって生み出された技術やアイデア、創作物などには財産的な価値を持つものがあり、その総称が「知的財産」です。知的財産の中には特許権や実用新案権などがあり、「知的財産権」と呼ばれます。

— INPIT滋賀県知財総合支援窓口とは

独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT：National Center for Industrial Property Information and Training）の委託事業で、中小企業等の特許・商標等の知的財産に関する悩みや課題などの相談（無料）に応じるため、窓口担当者が様々な支援を行っています。また、より専門的な相談や高度な相談については、弁理士や弁護士等の知財専門家と協働して支援を行います。

— どのような課題について相談できるのか

最近では、屋号とか商品名、サービス名など商標の相談が非常に多くなっています。知的財産というのは、特許や実用新案だけでなく、創業したときの会社名や

一般社団法人 滋賀県発明協会

事務局長 山中 仁敏 氏
やまなか まさとし

創業 (相談例)

- ①会社を始めるにあたり、会社名、商品名、サービス名は、使っても大丈夫だろうか？
- ②意匠登録、商標登録をしたい。

商品開発 (相談例)

- ①新しい商品、サービスを考えたが、他人の技術やデザインを使っていないだろうか？
- ②特許、実用新案の出願をしたい。

販路開発 (相談例)

- ①ホームページを作ったが、他人の著作物を利用していないだろうか？
- ②オンライン販売をするにあたり、考えたショップ名は使っても大丈夫だろうか？
- ③海外でも販売したいのだが、会社名、店名は使っても大丈夫だろうか？

■相談の流れ



—— 現在、力を入れていること

「IPランドスケープ」「知財ビジネス評価書」などのツールを積極的に活用しながら、中小企業の経営に貢献する知財活動や成長持続を支援しています。また、創業・起業されるベンチャーのスタートアップの支援にも取り組んでいます。とりわけ、創業・起業

—— 特許や商標登録を出願する際に気をつけることは？

時間的な問題です。出願してすぐに登録できることではないので、しっかりとスケジュールを立てて欲しいです。また、個人で出願することもできますが、申請の書き方などかなり複雑で難しい点があるので、できれば特許事務所や弁理士に相談されることをお勧めします。

—— 相談したいのだが、どうすればいい？

ここ（滋賀県発明協会）での相談会と、外部の相談窓口として県内12箇所での相談会を実施しています。相談を希望される場合は必ず事前に電話をください。日時・場所等については下記URLを参照してください。

2021年度の相談総件数は2608件、そのうち中小企業支援機関との連携件数は167件となっています。

IPランドスケープ

競合他社の出願・権利化動向を調査し、自社のポジションを把握したり、先行技術を調査して事業展開に必要な権利取得の可能性を評価すること。さらには、自社が保有する知財権を棚卸しし、事業をサポートしているかを再検証して経営戦略を検討すること。

知財ビジネス評価書

知的財産を活用したビジネス全体を評価したもの。これを作成し金融機関と共有することで、金融機関が知財に着目して中小企業等の経営資源を理解し、事業や経営の支援に繋がることが期待できる。

や企業の持続的成長には地域金融機関の支援が不可欠です。金融機関には「知財ビジネス評価書」を積極的に活用いただき、資金面での支援に繋がりたいと考えています。

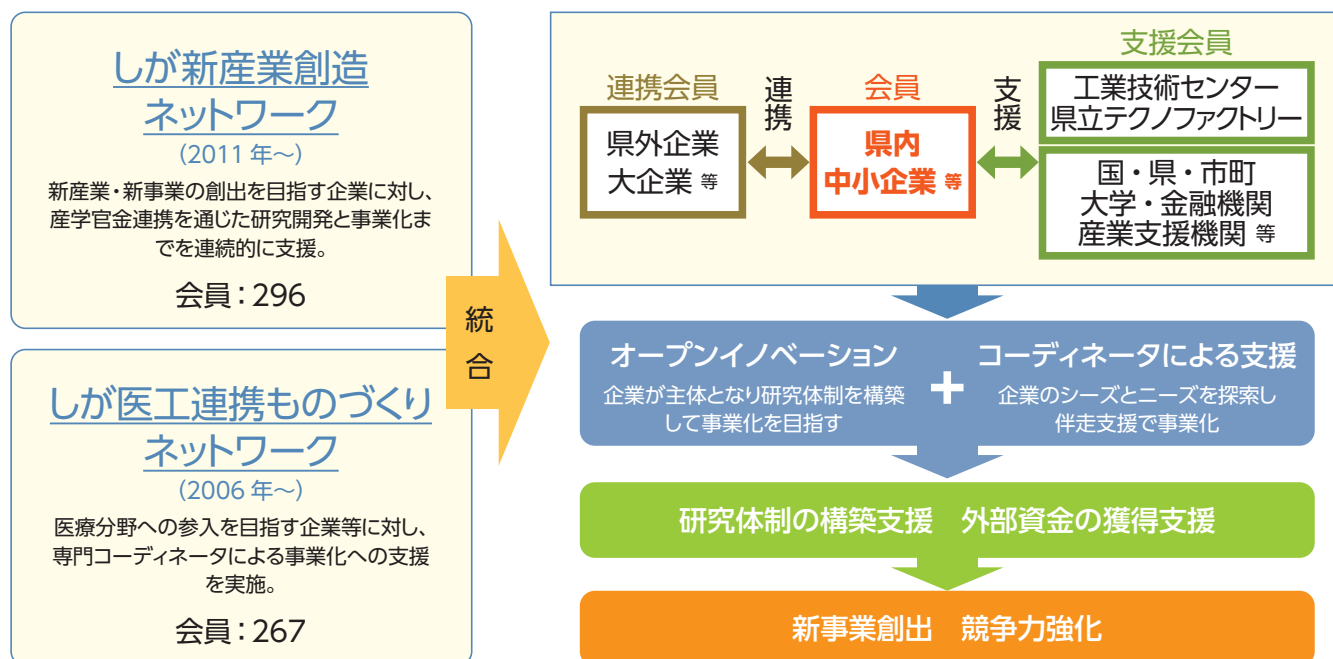


発足!

しがオープンイノベーションフォーラム

産業構造の変化や製品・技術サイクルの短期化など不確実で変化の激しい時代を迎える中、良質の連携先を早く見つけ出すことが企業の生き残りの条件になってきています。

当プラザでは、ものづくり企業のほか、農業や情報通信など様々な技術シーズを有する企業、さらには県外企業や大手企業を取り込んだ“出会いの場”を形成し、企業間マッチングを推進する機会の提供やコーディネータによる伴走支援を通じて、オープンイノベーションを加速することで新事業創出による県内中小企業の競争力強化を図ります。



キックオフ・フォーラムを開催しました

しがオープンイノベーションフォーラムの発足を記念して、令和4年3月17日にピアザ淡海にて、136名が参加してキックオフ・フォーラムを開催しました。

マツコロイドなどロボット研究の第一人者で、大阪・関西万博のプロデューサーを務める、大阪大学の石黒浩先生による講演（「アバターと未来社会」）のほか、女優でロボット研究者としても活躍される いうまい子氏による講演（「人生100年時代に向けた“貯筋”のススメ」）など、研究開発におけるオープンイノベーションの重要性について実例を交えてご講演をいただきました。



事業概要

セミナー（出会いの場づくり）

オープンイノベーションを活用した先進的な取組事例や最新の技術動向の紹介などを通じて、企業の出会いの場を提供。

● オープンイノベーション推進シンポジウム

成長分野など最新の情報提供と新たなビジネス展開や新製品開発につながるニーズとシーズの出会いの場、経営者と研究者等の交流の場を提供し、研究開発や事業化プロジェクトの創出や産学官金連携のネットワーク強化を目指します。

● 科学技術セミナー

技術責任者を対象に、将来を見据えた技術情報の紹介やより高度な第三者との共同開発の手法や事例を紹介し、技術のブラッシュアップと新規事業参入を促進します。



シンポジウムの様子（イメージ）

ピッチ（事業化へのきっかけづくり）

異業種交流会、各種ピッチなどを通じて、企業のニーズとシーズのマッチングを促進。

● 異業種交流会

企業の経営者を対象に、トップダウンによる意思決定、他社（他者）とのコラボレーションで新たな研究開発を推進します。

● 各種ピッチ

テーマ別ピッチ（勉強会）、アイデア・課題ピッチ（見学会等）、座談会（討論会）、共同出展ピッチ（展示会）など、事業化へのきっかけづくりや事業化推進の支援を行います。

ワークショップ

フォーラム内の有志によるワークショップ（研究会）を設置して、より実践に落とし込むための活動。

● ものづくりIoT研究会

DXを目指したAI・IoTなどの最新情報の提供や、分科会による座学と実際の現場見学などにより互いに学び合い、高め合い、更に新たな価値創造を目指しています。

● しが医療機器ビジネス研究会

滋賀医大、病院などと連携し、セミナーや展示会、病院見学等のイベントを開催し、医療分野で新技術・新製品の開発を目指す企業を支援します。



ビジネス研究会（展示会）の様子

その他

● コーディネータによる企業ニーズに沿ったきめ細やかなマッチングを行います。

● 競争的資金の獲得を支援します。

開催のご案内

第1回オープンイノベーション推進シンポジウム

日時：令和4年7月14日（木）

14:00～16:45

会場：ピアザ淡海
大会議室

講演① 「イノベーションで生き残れ！ ～100年続く企業を目指して～」

京都大学経営管理大学院 客員教授
オムロン(株) イノベーション推進本部 シニアアドバイザー

竹林 一 氏
たけはやし はじめ

講演② 「産学連携による医療機器開発：現状と課題」

大阪大学大学院医学系研究科 次世代内視鏡治療学講座

特任教授 中島 清一 氏
なかじま きよかず

参加費
無料！
先着 100名

CO₂ネットゼロ支援室を 開室しました！

CO₂ネットゼロとは、事業活動等により大気中に排出されるCO₂と森林等により大気中から除去されるCO₂が同量でバランスが取れている状況のことです。

当プラザでは、県内中小企業の省エネルギー、再生エネルギーの導入、CO₂排出削減に向けた製造法、工法開発まで等のCO₂ネットゼロの取組を支援します。

■ 省エネ診断

専門家が事業全体のエネルギーの使用状況を調査・分析し、省エネに向けた助言・提案を実施

■ 省エネ・再エネ設備導入加速化支援

省エネ・再エネ設備の導入に対する補助金

■ 省エネ伴走支援

専門家が省エネ計画の作成を補助し、その実現へ向けた支援とフォローを実施

■ 次世代自動車導入促進

次世代自動車の導入補助金・
災害時のレジリエンス強化促進

■ びわ湖カーボンクレジット普及促進

補助金を活用した照明LED化により削減したCO₂をクレジット化、県内のCO₂ネットゼロ活動に還元

■ 製造業におけるCO₂排出削減への取組支援

セミナー開催・企業等の取組状況調査による情報提供
により県内製造業のCO₂削減を促進

省エネ診断

製造業における
CO₂排出削減
への取組支援

省エネ・再エネ
設備導入加速化
支援

CO₂
ネットゼロ

びわ湖
カーボンクレジット
普及促進

省エネ伴走支援

次世代自動車
導入促進

滋賀CO₂ネットゼロ社会づくりに向けて 「省エネ再エネ等設備導入加速化事業補助金説明会」を開催



5月11日、コラボしが21で「省エネ再エネ等設備導入加速化事業補助金説明会」を開催しました。

当日は質疑応答も活発に行われ、環境問題に対する関心の高まりが感じられたセミナーとなりました。

2050年のCO₂ネットゼロを実現するため、従来から進めてきたエネルギー消費量の削減（省エネ）と、再生可能エネルギーの導入の拡大をさらに推進し、地球温暖化防止に伴う大きな社会構造の変化に取り残されることなく、事業の持続的な発展が図られるよう、経営の安定および向上が求められています。各企業に於いては、世界的な資源高に伴うエネルギーコストの上昇に対応しつつ、CO₂ネットゼロ社会づくりを推進していく必要があります。

中期ビジョン ～2030年の中期目標～

(出典：「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画」)

温室効果ガス排出量削減目標（万t - CO₂）

2013年度 **1,422万t** ⇒ 2030年度 **711万t** (▲50%)

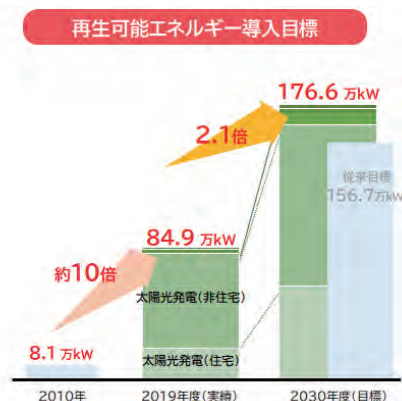
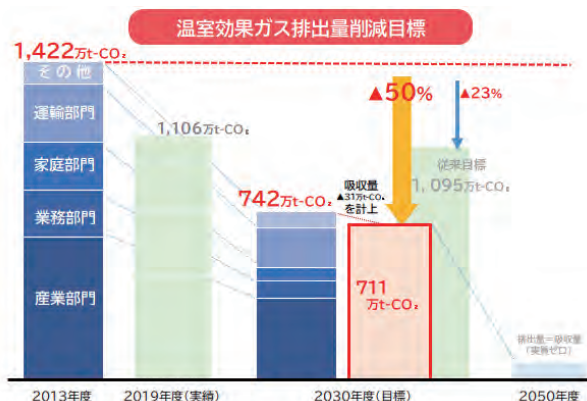
◆エネルギー起源CO₂排出量 1,323万t ⇒ 676万t (▲49%)

産業部門：634万t ⇒ 350万t (▲45%) 業務部門：210万t ⇒ 83万t (▲60%)

家庭部門：216万t ⇒ 70万t (▲67%) 運輸部門：263万t ⇒ 172万t (▲35%)

◆その他排出量（非エネルギー起源CO₂・フロン類・メタン等）98万t ⇒ 66万t (▲33%)

◆吸収量（森林等）31万t（森林：28.4万t 農地土壌および都市の緑化等：2.9万t）



滋賀県内で創業する方を強力に サポートする支援体制

滋賀創業サポートネットワーク

滋賀創業サポートネットワークは、滋賀県内で創業支援に取り組む市町、インキュベーション施設や商工会議所などの産業支援機関、民間企業、金融機関等が集まり、滋賀県で起業をする方を強力にサポートするためのネットワークです。

令和3年(2021年)1月28日に設立し、ネットワーク会議や分科会を開催し、参加者同士の情報交換から新たな支援策などの連携事例が誕生しています。

※先号(69号)にも「滋賀創業サポートネットワーク」の記事を掲載していますのでご参照ください。

ネットワーク会議

情報
交換
意見
交換
交流
の場

ネットワーク活動から新たな連携や新たな創業支援策を実現する。

最新の創業支援策、県内外の有効な創業支援事例、連携強化のためのワークショップ、交流会等の実施

会員による自発的活動

分科会 経済環境等の変化に適応し、スクラップアンドビルド

情報発信・共有分科会「知っとこ」
会員が取り組む創業支援情報の共有

アントレプレナー教育分科会「巣だっち」
学生の起業家教育を考える

滋賀らしい創業支援検討・研究分科会
社会課題・地域課題の解決に向けた滋賀らしい創業を検討

NEW 中小企業経営者による創業(第二創業)分科会
経営者の視点から創業(第二創業)の重要性を検討する

NEW サステナブル経営のための知識を習得する分科会
クラウド、DX、メタバースなど最新知識を習得

NEW 支援スキル向上分科会
伴走支援者の支援スキルの向上

支援の質の向上

会員のリソースの活用

【産業支援機関】 商工会議所等による支援、創業相談、創業塾等の実施
【行政】 施策の立案・実施等
【大学】 教育、インキュベーション施設
【金融機関】 資金支援、創業塾 等

事業連携

創業機運の醸成

1. ビジネスカフェ
2. 滋賀県起業支援事業
地域の社会課題を解決する創業
補助上限200万円 補助率1/2 + 伴走支援
※移住の場合は別途100万円
3. 女性のためのオンラインマルシェ事業
G-NETしが女性起業支援センターと連携
コロナに左右されない起業・販路開拓

インキュベーション施設の活用

1. 創業プラザ滋賀・BizBaseコラボ21
2. 米原SOHOビジネスオフィス
3. テクノファクトリー事業

社会課題や地域課題の解決

創業・新事業の創出

- 事例
- 【産業支援機関】 事業の連携
 - 【行政】 条例設置検討委員、補助金審査員、移住施策、タウンミーティングメンバー、ピッチコンテストサポート、特定創業支援の実施
 - 【大学】 授業、ワークショップ
 - 【金融機関】 創業塾の共催、後援



問い合わせ先

(公財)滋賀県産業支援プラザ 経営支援部 創業支援課 ☎ 077-511-1412 📠 077-511-1418 ✉ in@shigaplaza.or.jp

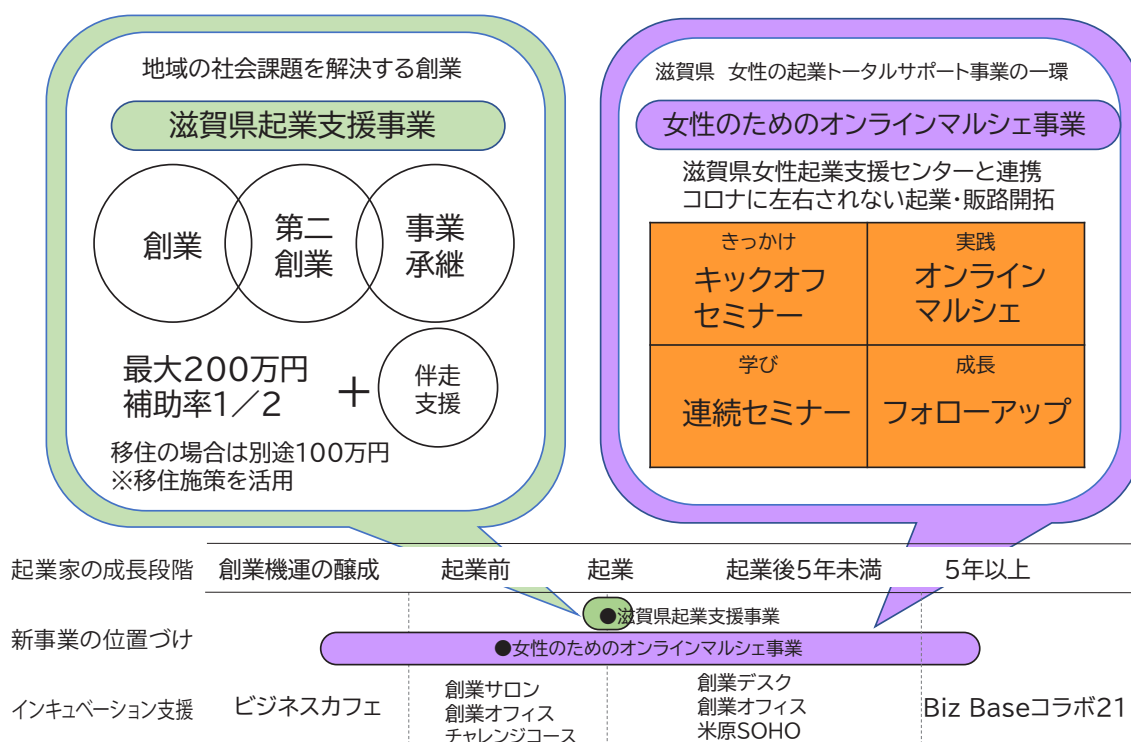
令和4年度のネットワーク活動

滋賀創業サポートネットワークの会員数は、42（令和4年3月末）です。令和4年度は、最新の創業支援策や県内外の有効な創業支援事例やネットワークの連携強化のためのワークショップや交流会などを促進する「ネットワーク会議」の開催や分科会活動を実施します。このような取組は、創業支援の質の向上や事業連携につながることから積極的に行っていきます。

また、ネットワークに未加入の市町や支援機関等に働きかけを行い、ネットワークの強化を図ります。

当プラザでは、昨年度のネットワーク活動から生まれた新たな事業として、「滋賀県起業支援事業」と「女性のためのオンラインマルシェ事業」を実施し、社会課題や地域課題の解決につながる創業を支援し、滋賀の創業・新事業の創出に寄与したいと考えています。

創業支援に関する新事業



ご挨拶



本会も今年で3年度目に入り、おかげさまで会員数も増えてきました。すでに情報発信・共有分科会「知っとこ」やアントレプレナー教育分科会「巣だっち」、「滋賀らしい創業支援検討・研究」の分科会において、情報共有や意見交換が活発に行われています。

創業・起業のサポートに関心を持つ人々の、オープンで自由な雰囲気の中で活発な意見を通して県内の創業・起業が盛り上がる会にしたいですね。

滋賀ならではの創業・起業環境を一緒に創りませんか、ご参加をお待ちしています。

滋賀創業サポートネットワーク 会長 西岡 孝幸

令和4年(2022年)

イベント・セミナー案内

- 掲載内容は予定ですので変更する場合があります。また新型コロナウイルス感染症の影響により、中止させていただく場合もあります。
- 開催日の約1カ月前から参加募集しますので、詳細はプラザのホームページ、またはメールマガジンをご確認ください。

メールマガジンのお申し込みはこちら▶



開催予定日	イベント・セミナー名	概要	担当課
6月～10月 予定	DXステップセミナー 10回シリーズ 会場：コラボしが21	① Google ビジネスプロフィール活用、②ペライチでホームページ作成、③ペライチでランディングページ作成、④ SEO ライティング、⑤最低限やっておきたいホームページの SEO 対策 ●対象：中小企業・小規模事業者等、創業予定の方	よろず支援拠点
① 7月 6日(水) ② 7月20日(水) ③ 8月 3日(水) ④ 8月17日(水)	4回で完成する キャッチコピー実践セミナー 会場：コラボしが21	たった“ワンフレーズ”で、商品やサービスの命運は決まるといっても過言ではありません。4回のセミナーで売れるキャッチコピーを創っていただきます。 ●対象：中小企業・小規模事業者等、創業予定の方	よろず支援拠点
7月14日(木)	第1回オープンイノベーション 推進シンポジウム 会場：ピアザ淡海 大会議室	オープンイノベーションを通じて新技術や新製品の開発をリードする企業や講師により、企業のイノベーション促進を後押しするための講演会です。 ●対象：県内企業	イノベーション推進課
7月19日(火)	第1回医療機器開発セミナー 会場：滋賀医科大学	看護師の役割と業務を知り、医療機器開発のヒントを得る機会として、看護師による話題提供（第一部）とパネルディスカッション（第二部）を開催します。 ●対象：「しがオープンイノベーションフォーラム」会員の方。	イノベーション推進課
7月22日(金)	出張相談会in草津 （予約制：相談時間50分） 会場：草津市立市民総合交流センター	新たにビジネスをお考えの方、企業経営（販路開拓・経営改善・資金調達・国際ビジネス・取引あっせん・下請かけこみ寺・マーケティング分析等）でお悩みの方の相談に応じます。 ●対象：滋賀県内に事業所を有する中小企業・小規模事業者・個人事業者の方【予約制】	経営相談室
7月22日(金)	しがビジネスマッチング会in草津 会場：草津市立市民総合交流センター	県内受注企業が一堂に会し、具体的な発注案件情報を入手し、県内中小企業の受注活動活性化の一助とします。 ●対象：プラザに受注企業登録されている、または登録予定の県内中小企業（製造業）【予約制】	販路開拓課
7月25日(月)	セミナー&座談会 物流イノベーションがもたらすCO₂削減 会場：コラボしが21	物流が抱える課題を解決する方策として、DXを活用したイノベーションの紹介とCO ₂ 削減効果について、専門家によるセミナー（第一部）と座談会（第二部）を開催します。 ●対象：県内企業	イノベーション推進課とネットゼロ支援室の共同開催
8月 9日(火)～ 9月13日(火)	女性のための オンラインマルシェ事業 連続セミナー	①イベントだけで終わらない集客導線講座、②オンライン決済講座、③ Google スライドを使ってオンラインで物売る方法、④ライブコマース講座、⑤オンラインでの魅せ方、光と色の話	創業支援課
9月予定	第2回医療機器開発セミナー 会場：滋賀医科大学	新たな医療機器開発に意欲的な企業を対象とした、医療機器開発のための実践的な知識を学ぶセミナーです。 ●対象：「しがオープンイノベーションフォーラム」会員の方	イノベーション推進課
9月16日(金)～ 11月25日(金)	生産性向上実践塾 (6日間コース) 会場：コラボしが21	座学、演習、現場診断実習を通し、現場管理者・リーダーが改善に必要な知識と実践する力を身に付けて、自社の改善活動を主体的に推進する人材を育成します。 ●対象：滋賀県内企業・事業所等の現場管理者・リーダー・候補者の方	しが産業生産性向上経営改善センター
10月 5日(水)～ 10月 7日(金)	第25回 関西機械要素技術展 会場：インテックス大阪	県内中小企業の秀でた製品・保有技術の展示を行い、県内中小企業が持つ技術と県内外を問わず幅広いIT企業との技術マッチングを行います。 ●対象：「しがオープンイノベーションフォーラム」会員の県内中小企業の方	イノベーション推進課
10月予定	第1回科学技術セミナー	主に技術責任者（技術部長等）を対象に、最新の技術情報、産業界のトレンドなどの紹介を通じて、企業のイノベーションを後押しします。 ●対象：「しがオープンイノベーションフォーラム」会員の方	イノベーション推進課
10月中旬	プロフェッショナル 人材活用 セミナー 会場：コラボしが21	プロフェッショナル人材の活用は、企業の活性化や発展、事業承継問題などの課題解決に有効な手段の一つであることを、種々の成功事例や失敗事例を参加者と共有しながら、本事業の利用促進を広く周知します。 ●対象：滋賀県内の中小企業の経営者、役員および人材採用担当者の方	プロ人材拠点
11月予定	CO₂排出削減取組支援 セミナー	主に製造業者を対象に、事例も含め、取組み方法、内容、項目を紹介します。 ●対象：県内企業	CO ₂ ネットゼロ支援室
11月中旬	大手企業交流会 会場：コラボしが21	大手企業と滋賀県内中小企業の交流会の開催により、出向・副業等の多様な方法を活用し、大手企業から中小企業への人材の還流を実現することを目的に、出合いのきっかけづくりを行います。 ●対象：滋賀県内の中小企業の経営者・人材採用担当者の方	プロ人材拠点



公益財団法人

滋賀県産業支援プラザ

（公財）滋賀県産業支援プラザは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています



〒520-0806 滋賀県大津市打出浜2-1 コラボしが21（2階）

TEL: 077-511-1410（代表） FAX: 077-511-1418（共通）

[E-mail] info@shigaplaza.or.jp [URL] www.shigaplaza.or.jp

